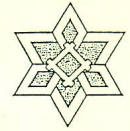


ふくい

舞鶴市立福井小学校

令和3年4月28日発行

(本年度2号)



学校教育目標

自ら学び 豊かな心を持ち

たくましく生きる 子どもの育成

皐月の空に、子どもたちの声…

4月は天候もよく春の日差しが温かく感じられる日も多かったです。しかし、まだ寒暖の差が大きく体調管理には注意が必要です。緊急事態宣言継続中のGWとなります。感染防止対策も含めて規則正しく安全で楽しい連休になればと思います。さて、先週は家庭訪問を実施しました。年度始めに保護者様と担任とがお出合いすることができ大変有意義な時間となりました。しかし、授業参観、学級懇談会、修学旅行説明会、遠足も中止となり、新学期に張り切って学習する子どもたちの姿をご参観いただけなくて残念です。



天気がよい日、休み時間のグラウンドでは、たくさん子どもたちが、サッカーやドッジボール、鬼ごっこ、ブランコなどをして、楽し遊ぶ声が響いています。子どもたちの様子を見てみると、遊具の順番が守れなかったりボールを当てられすねたり怒ったり…いろいろな姿が見られます。自分の思い通りにならないことに、腹を立てたりすねたりするのは、子どもにとって素直な感情表現であり当たり前のことです。



ある日、上級生のドッジボールを見ていると1年生がやってきました。上級生の男の子がプレーを止め「一緒にやろう!」と声をかけました。1年生は上手にできず、わがままを言うこともあります。でも上級生は怒ったりせず、ボールを渡してあげたりゆっくり投げたりして「一緒に遊ぶ時間」を楽しんでいました。多くの子どもは学年が上がるにつれ「幼さ」が少しずつ消え、遊びそのものの面白さや、その場の雰囲気を考えて楽しむようになります。しかし、自動的に



そなるわけではありません。自他の感情の起伏を理解し、その場に依じて行動できるようになることは、簡単なことではありません。困難な状況を大人が解決してしまうと、いつまでも自分で問題に立ち向かう力が付きませんが、友達と遊んだり喧嘩したり悩んだり喜び合ったりする経験を経ることで、自分(自分たち)で問題を解決しながら自分らしくよりよい生き方を身に付けていきます。大人には、難題にぶちあたりそれを乗り越えようと立ち止まって考え四苦八苦する子どもに、しっかりと寄り添い、支え、励ますという重要な役割があると思っています。



本校は学校教育目標に「豊かな心…」を挙げています。大人もそうですが、子どもたちが複数で一緒に活動しようとするとき、よくトラブルが起きます。それぞれが別人格ですから当たり前ですが、お互いのことを考え、うまく折り合っていくこと(片方だけが我慢しているのではない)ができると、一人一人が学校生活を楽しみ感じる、思いやりのある温かい学校になります。「豊かな心…」を育てるためには、自分の気持ちが安心して表現でき、その思いが尊重される環境を、みんなで築くことが大切だと考えます。



今後の教育活動が充実して展開できますよう保護者、地域の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

校長 波多野 暢 教職員一同